大阪府における障がい者アート施策の今後の方向等について

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | これまでの取組み | 主な成果（○）と課題（●） | 今後の方向性 |
| 公募展 | ■平成21年度から今年度まで７回にわたる公募展を実施。（別紙１参照）■現代アートとしての障がい者によるアートの魅力発信とアーティストの発掘が主な目的。 | ○７名のアーティストの発掘につながるなど一定の成果あり。●メディアへの露出等の発信力が弱く、認知度の向上につながりにくい。●公募展での受賞が具体的な支援につながらない。 | ■公募展については、これまでの実績・経過等を踏まえつつ、支援対象とすべきアーティスト・事業所の発掘という観点や公募展そのものの効果も考慮して、複数年に一度の開催も視野に、そのあり方を検討していく。■アートの展示全般については、通年で、府内各所で府の支援する事業所等による展示が随時行われている環境づくりを進めることで、大阪府の都市魅力としての障がい者アートの定着を図る。 |
| 販売等の支援※ |  | ■平成27年度から今年度までの福祉基金を活用したモデル的取組み。（別紙２参照） | ●モデル的取組みの成果・課題を踏まえた施策の展開。 | ■モデル的取組みの成果や課題を踏まえて、府施策として継続的に展開。 |
| 事業所等への支援 | ■公募展入賞者を中心に販売等支援の対象となるアーティストを発掘。■アーティストが通所する事業所等へのアドバイス等も含めた支援を併せて展開。 | ○カペイシャスによる支援により、事業所等の独自のアートの販売活動やアーティストへの支援体制の充実が図られている。○支援を受けている事業所等からの継続支援のニーズ大。 | ■事業所等独自の障がい者アートに関する取組みを支援。　－アートの展示　　通年で、府内各所で府の支援する事業所等による展示が随時行われている環境づくりを進めることで、大阪府の都市魅力としての障がい者アートの定着を図る（再掲）。　－アートの販売・２次利用　　事業所等による独自の販売・２次利用の支援を行う。　－事業所等の交流・共同企画の促進■公募展を通じて発掘したアーティストの販売等支援。　－発掘したアーティストの販売等支援を展開　－販売等支援のための拠点確保・運営資料３ |
| 販売等の支援 | ■アーティストの作品の販売支援を展開。■結果的に２次利用に結びついたアーティストあり。 | ○販売等支援の結果、高額取引されるアーティストも出現。●費用対効果の面では、難あり（特に海外展開）。 |

※大阪府福祉基金を活用し、平成２７年度からの３か年で、大阪府公募展入賞者等を対象とした事業所等への支援や販売等の支援をモデル的に実施。　　その都度、事業実施主体を公募し、３か年とも「カペイシャス」という名称・コンセプトの取組みが選定された。今後の方向性については、「カペイシャス」の取組み結果を踏まえたものとなっている。